



YURIHAMA
湯梨浜中学校だより
三智創造



令和6年3月8日
第38号 文責 梅原恵和
〒689-0737
湯梨浜町大字長江51番地
TEL (0858) 47-5500

ご卒業おめでとうございます～令和5年度卒業式 式辞～

深々と大地に根を伸ばし、じっと冬の寒さに耐えてきたタンポポも今、太陽に向かって花開こうとしています。本日ここに、宮脇正道町長様、山田直樹教育長様をはじめ、たくさんのご来賓、保護者・ご家族の皆様のご臨席を賜り、令和5年度湯梨浜町立湯梨浜中学校卒業式を挙行できますことに、心から感謝申し上げます。



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。私がみなさんと出会って、一年が経とうとしています。わずかな月日ではありますが、みなさんが日々いろいろなことに挑戦し成長していく様子を近くで見ることができて本当に幸せでした。この一年間、朝はできるだけ挨拶をしながらみなさんを玄関で出迎えるよう心がけました。最初、挨拶が会釈だけだった人の声が聞こえるようになったり、逆に元気よく挨拶していた人の声が小さくなり心配になったり、朝のほんの短時間でのみなさんの様子に一喜一憂する日々でした。週明けから、そんな卒業生のみなさんの顔を見ることができないのかと思うと本当に寂しくなります。

みなさんの卒業を前に、一年間の湯梨浜中学校ホームページ、学校だよりをすべて見返してみました。四年ぶりに関西へと出かけた修学旅行では、自分たちで声を掛け合い、少しずつ行動を正していくみなさんの姿にその後の期待感を覚えました。インフルエンザでたくさんの欠席者が出た運動会では、欠席者の名前を声に出しながら運動会にのぞむ三年二組の姿に、その三年二組を学年全体で応援するみなさんの姿にあふれんばかりの優しさを感じました。人権劇と合唱に力を注ぎ、練習の時から1、2年生を行動でリードし、さすが3年生と感じさせるステージを披露した文化祭では、みなさんに先輩としての頼もしさを感じました。そして、最も感動し、鳥肌が立ったのは中部文化祭での学年合唱です。ラストを飾るに相応しい圧巻の合唱を披露したときには、ステージに立つみなさんの姿に大きな誇りを感じました。それ以外にも、日々の授業や部活動に頑張り、大会等でも優秀な成績を残してきたみなさんの活躍は、この湯梨浜中学校の歴史に大きな一ページを刻んでくれたものと感謝しています。本当にありがとう。

そんなみなさんに、相田みつをさんの「しあわせは いつも じぶんのこころが きめる」という言葉を贈りたいと思います。私たち人間は、日常ではあまり起こらない幸運なできごとが起こるとついつい幸せを感じます。しかし逆に、地震等の災害が起こり、日常の「あたりまえ」の生活が奪われてしまうと、それまでの日常がいかに恵まれていたのか、幸せだったのかということに気づくことがあります。人が幸せを感じる感覚は、人によって、そして状況によって大きく異なるのです。「しあわせは いつも じぶんのこころが きめる」のです。ただ間違いなく、毎日の「あたりまえ」の日常に普段から感謝できる人の方がずっと幸せに生きることができ、寝泊まりできる家があること。自分のことを心から心配してくれる家族がいること。自分が話したいと思ったときに、話を聞いてくれる友だちがいること、そんな「あたりまえ」の日常に感謝できる人であってほしいと思います。みなさんの幸せを心から祈っています。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。この三年間、思春期を迎えて心身ともに不安定な時期もあり、ご心配をおかけしたこともあったかと思いますが、こうしてたくましく、立派に成長されたお子様の姿を目の当たりにされ、感慨もひとしおのことと思います。これまで、保護者の皆様方が日頃から注いでこられた愛情の深さに心から敬意を表しますとともに、これまでの湯梨浜中学校に対するご理解とご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生のみなさん、いよいよお別れの時です。今後みなさんは、自分たちが選択したそれぞれの道へと次の一步を踏み出すことになります。しかし、人生に正解などというものはありません。自分が選択した道を自分の頑張りやで正解にしていくしかないのです。頑張り、卒業生諸君。みなさんの前途に、幸多きことを願い、式辞といたします。